

【成果報告】

【研究概要】

本研究は、感覚過敏を有する精神障害者らがパニックとなる要素を把握し、環境調整手法によりその要素を軽減させることで社会における能力発揮や活躍に繋げ、寛容で温かい共生社会の DEI (Disability, Equality, Inclusion : 障害性、平等性、共生) を目指す。現在に至るまで、どこにでも建設可能な簡易構造物であるインスタントハウスを活用し、外部の刺激を遮断するとともに心地よい多感覚刺激を提供する、落ち着くための空間「カームダウンスペース」を作成し実験を実施した。

本研究では、環境調整された空間の開発においてウェアラブル生体センサを用いることで生体センサ情報に合わせて照度を暗くし、適切なタイミングで芳香を醸し出すことで、当事者一人ひとりに合わせた、インタラクティブ性を取り入れ、より深い安心感を与えるための手法を開発し、その効果を検証することに新規性があり、より素早く落ち着きを取り戻すことが可能な空間の創出を目指した。

【研究成果】

カームダウンスペースの作成および对外発表（デモ等）にて、成果を出した。本研究を主軸に博士論文に貢献した。

落ち着く環境の設定の実証実験のために、不登校など学校に事情があり通い難い生徒が集う京都府立清明高等学校様の校内にカームダウンスペースを含む落ち着く場所・チルススペースの設計に貢献した。現在、ウェアラブル生体センサを用いることで生体センサ情報に合わせる検証のために、AI と絡めて実証実験を実施する準備段階である。図 1 のように共生社会を目指す一旦のスタートには貢献した。



図 1 日本の現状とカームダウンスペースの活用、今後の未来の共生社会へ向けて

【研究発表】 2024 年 4 月-2025 年 4 月

査読論文 2 編、国際発表 4 件、国内発表 4 件、国際招待公演 4 件